ポットポイント

猫と人間そして幸せ

コロナで外で飲むことは激減したが、〝コロナの時代〟だからこそ濃密な議論が必要だとして、地元に住む〝勇気〟ある者たち三人がコアメンバーの「チクリンの会」なるものを立ち上げた。「竹林の七賢」ならぬ「変ちくりん」をもじっての命名だ▼先般の会では、猛暑、地球温暖化も大きな話題となった。メンバーの一人N氏は獣医師でもあるが、N氏が言うには、以前は夏になると熱中症で猫が運び込まれることが多かったのに、この5年ぐらいは熱中症にかかった猫にはおめにかかっていないとのこと。その理由は、猫はクーラーの効いた室内にいて、外に出ることがなくなったから、という▼誰が何を言ったかは定かではないが、猫はそうした〝恵まれた〟環境で生活し、決められたエサを食べて健康にいいことずくめだ、とも。一方で、ちょっと待て。これは人間相手の老人ホームの話しそのものではないか、ということに。外出を控え、温度調節された場所だけにいて、決められた時間がくればカロリーや栄養バランスのとれた食事が出され、長生きするだけ▼考えてみれば、老人ホームは象徴であって、家庭も社会もそうなりつつあるのではないか。マンションに住み、外気を遮断し、食べるものも手作りは減って、〝安全な調理食品〟の注文が増えるばかり。管理水準を上げることを豊かさと錯覚しているのではないか。むしろ熱中症にも負けない体力づくり、日常生活の見直しが必要なのではないか。他人や社会に管理されない部分・領域を持っていることが人間の人間たるゆえんであり、そこにこそ真の生き方があるのではないか。結局、三人が一致したところは、もっと人間らしく生きよう、ということに▼熱い議論で留飲を下げ、汗を拭きふき自宅まで歩いて戻った一夜の話だ。

（土着菌）